

1 第2回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議の意見と追加資料について

【主な意見（宿題事項）】

主な意見	対応状況
○身の回りに独身の人が多い。出生率の前に、結婚率を上げることも大事では。	・追加資料1を参照
○やりたい職業と八幡平市が提供できる職業のミスマッチが生じているのでは。	・岩手県立大学生へのアンケート調査を実施予定
○ホテルのお盆客が減った。ただ待っているだけではなく、何か手を打たないと行けない。宿泊施設との意見交換してほしい。 ⇒産業界との意見交換が必要である。	・産業界の意見を把握するために企業懇談会やホテル協議会等との意見交換を行う予定

【その他主な意見（留意点）】

項目	主な意見
出産・子育て	○出生には2つの壁（1つ目は子供が居ない人が第一子をもうけるとき、2つ目は2人目を生むとき）。どう取り払うか？
	○八幡平で子育てしていることが、評価されるような、 <u>教育のブランド化</u> ができないか？
	○男性が家事をするのは一つのモデルケースになるかもしれない。
	○出生率を上げるための努力はする価値がある。
学校・教育	○八幡平で必要となる（現在、将来的に不足する）人材を育成する学校を作るのはどうか。
	○インターンシップ等の職業体験で、産学が寄り添って、子供達に教える環境をつくることはできないか？
情報発信 (魅力)	○「子供たちに八幡平市の魅力を教える」部分が少ない。
	○親世代があまり八幡平市の良さを知らないことも課題。学校の他に家庭からも魅力を発信することが必要
	○都会から来た人は、八幡平の自然を「すばらしい」というが、地元の方は、見慣れているので普通である。⇒「私達はすごく恵まれたところで過ごしている」ことを本当にわかって伝えていくことが大切。
	○事業に優先度をつけることが必要である。
	○移住したい人は、自分で勝手に魅力を見つけて移住してくるので、 <u>事業の優先度は低い</u> 。
○田舎暮らしに憧れている層に情報発信できないか。	
情報発信 (仕事)	○都会に行っている人へ、「八幡平市でこういう企業が求人を募集しています、是非戻ってきて！」という情報を発信することはできないか。
	○情報をHPに載せるだけではダメで、本人を説得するのは家族なので、 <u>家族の人が都会に行っている家族への働きかけを行政が支援する仕組み</u> つくりできないか。
産業・仕事づくり	○八幡平でいくつかの仕事を掛け持ちして生計を立てるモデルは可能か？
	○移住した後に生業がないと暮らしていけない。⇒八幡平市ではどのような職業を提供できるのか？を考えていくことも重要
	○単なる企業誘致だけではダメである。（企業に人を取られると、市内の人口が少ないため、地域内の他の産業が成立しなくなる）
	○人口が減るときに、一番最初に人が減る産業は、動労生産性の低い産業であることから、 <u>地域の商店、第一次産業の生産性を上げる必要がある</u> 。
	○八幡平市は第一次産業が主流なので、農業の考え方を改めて、「 <u>観光と結びつく</u> 」や「 <u>生活と結びつく</u> 」など魅力を高めていく必要がある。
	○自然エネルギーと第一次産業の6次化が必要。